

2019年

10月号

NO.174



みんなで作る子育てひろば

深川北みずべかわらばん

「ひとつぶの種」



高く澄み切った青空や吹く風に、秋の気配を感じるようになりました。みずべでも、季節の移り変わりと共に子どもたちの日々の様子にも変化が見られます。

赤ちゃんのお部屋でねんねしていた子がハイハイをしながら、おもちゃを押したり引いたりする姿や、よちよち歩きだった子もいつの間にかしっかりと、走ったり跳んだりいろいろな動きが出来るようになってきました。

先日ひろばで、幼稚園の子どもたちがブロックを高く積み上げて遊んでいるのを見ていた2歳児の子どもたちが、同じように真似てブロックを積み上げあげようとする姿がありました。幼稚園の子どもたちのように上手くは積み上げられませんが「同じ世界を共有したい」という気持ちが子どもたちから溢れていて、ほっこりするあたたかな時間が流れていきました。今年も春に蒔かれたたくさんの関わりの種が、秋になって実を結び、子どもたちの今の姿や瞬間が紡ぎだされていきます。子どもたちを種に例えたならば、一粒ひと粒はちいさな種ですが、その一つひとつに大切な命が繋がりに育まれていることを実感します。

少し早いお知らせとなりますが、11月9日は、ファミリーデーがあります。今年で深川北みずべも15周年を迎えます。ひろば内には、今までひろばを利用した親子やボランティアさんが繋がりにあゆませてくださった「深北みずべのあゆみ」も掲示しています。又プレママ・プレパパさんプログラムもあります。ぜひお友達と誘い合って、ご家族でおいでください。

山澤 美津子

ひろば通信

先日、『助産師さんと話そう』というプログラムがありました。二人の助産師さんを囲んでお母さん同士で話すのですが、今回は「赤ちゃんの泣き」についての話が中心に…。「夜1時間ごとに起きて泣く」「夕方になると火のついたように泣く」「夜は良く寝るけれど昼間はぐずぐず泣くことが多い」などお子さんによって様々です。それぞれに完璧な解決策はないけれど、助産師さんからのアドバイスや他のお母さんの話を聞いているうちに、参加した方の心が少しでも軽くなっていると嬉しいです。

「泣くことは赤ちゃんの仕事」と言葉では分かっているけど、いざ二人きりの自宅ですっと泣かれると本当に辛いものです。そんな時は、みずべに来てみてください。スタッフもお母さんの話を伺ったり、抱っこを代わったり、出来る限りのお手伝いをします。気軽に寄ってくださいね。お待ちしております。

(宮内 友紀)